

## 4 共同研究・学会等の活動状況

### 1 共同研究・受託研究（国内・外）の実施状況

#### （基礎看護学分野）

（国内）大津廣子：介護需要の価格弾力性の研究（名古屋市立大学経済学部経済研究所，1999-），介護サービス事業の育成・振興方策に係る調査研究（岐阜県産業経済振興センター，2000-2001），看護基礎教育の基準作成に関する研究（日本看護学教育学会，2001-）

樋口京子：在宅高齢者ケアのプライオリティに関する研究（日本福祉大学，2001），基礎自治体（広域型・単独型）における介護保険制度の効率的運用と政策選択の評価基準に関する研究（日本福祉大学，2001-2002），在宅高齢者の終末期ケア用のマネジメントプログラムの開発（日本福祉大学，2003）

中村喜美子：保育園新入園児の身体発育経過に関する研究（名古屋市立大学，2002-）

#### （健康援助学分野）

武藤吉徳：Blepharismine の形成するイオンチャネルの解析（高知大学理学部，1999-）Climacostol の生理活性に関する研究（大阪市立大学理学部，2001-）カビ代謝産物の細胞毒性に関する研究（中京女子大学健康科学部，1997-）

#### （母性看護学分野）

アメリカ合衆国ノースウエスト地域における日系人の妊娠・分娩・産褥期の生活について共同研究を行っている。第一回の報告は終了したが、現代の日系人の生活をさらに分析する予定である。（Seattle Pacific University）

岐阜県保健所及び県内の高等学校：ピアカウンセリングの実践と評価（高校生に対する性教育活動）

全国助産師教育協議会：助産師教育における助産管理

神戸常盤短期大学：母性理念形成要因の世代別比較

#### （成人看護学分野（急性））

（国内）：竹内登美子，松田好美，西本裕，高橋由起子：多視点同期型画像を用いたストーリーミング技術を用いた成人看護学急性期実習教材（県立岐阜看護大学，2002～）

竹内登美子，松田好美，西本裕，高橋由起子：医師・看護師共有の電子カルテの開発（株式会社クレドメディカ，岐阜県立看護大学，2003～）

竹内登美子，松田好美，西本裕，高橋由起子，他：バーチャルリアリティ・マルチメディアを用いた看護学教育，岐阜大学地域交流研究会，2000～）

竹内登美子，松田好美，高橋由起子：看護教育用CAIの開発（21世紀教育研究所，シャープシステムプロダクト，2000～）

（国外）：竹内登美子，松田好美，西本裕，高橋由起子 他：Robot Therapy（Georgetown University，2000～2001）

## 2 研究費の状況

基礎看護学分野 科学研究費補助金・基盤研究 C2，岡本恵里：患者・高齢者を看護する看護者の手に加わる圧力測定手袋の開発と手の使い方の探求（2001-2002，代表），文部科学省・基盤研究（C），大津廣子：公的介護保険の制度設計に関する総合的研究（2002-，分担），文部科学省・基盤研究（C），樋口京子：要介護高齢者の療養の場の移動に関するコホート研究（2002-2004，代表），笹川医学医療研究財団ホスピスケアに関する研究助成金，樋口京子：在宅高齢者におけるターミナルケアの質の評価に関する研究（2003，代表）。

健康援助学分野 文部科学省・萌芽研究，武藤吉徳：3次元蛍光共鳴エネルギー移動法による細胞内タンパク質間相互作用の解析（2002-2003，代表）

小児看護学分野 日本学術振興会・科学研究費（基盤研究 C2），桑田弘美，村井静子：障害児の在宅ケアにおける家族への支援体制強化に関する調査研究（2002～）

岐阜県脳医学研究振興会補助金 桑田一夫，中島利彦，桑田弘美他：fMRIによる高次機能障害の診断法及び各種治療評価法の開発（2002）

成人看護学分野（慢性） 文部科学省・基盤研究（C）足立久子：慢性疾患患者のQOLに関する臨床的研究 - Time Trade-Off法による検討 -（2001-2002，代表）

成人看護学分野（急性） 文部科学省・基盤研究 C，竹内登美子：バーチャルリアリティを用いた術後看護用 CD-ROMの開発と学習効果の検証（1999-2001，代表）岐阜大学 技術交流研究会，竹内登美子：バーチャルリアリティ/マル

チメデア看護学教育研究 (2002-, 代表) 文部科学省・基盤研究 C, 松田好美: 術後せん妄の予防および早期発見を目的とした日本語版の信頼性・妥当性の検証 (2002-2005, 代表) 文部科学省・基盤研究 C, 竹内登美子: 臨床看護実践能力を高める Web 教材の開発と看護教育支援システムの構築に関する研究 (2003-2006, 代表) 平成 15 年度財団法人ソフトピアジャパン共同研究開発, 竹内登美子: 医師・看護師共有の電子カルテの研究開発 (2003, 代表)

老年看護学分野 日本看護診断学会研究助成金 松波美紀: 初期情報収集とその活用方法の検証 (1999 - 2003)

地域看護学分野 文部科学省・基盤研究 (C) 後閑容子: 訪問看護ステーションにおけるリスクマネジメントのあり方 (1999-2001, 代表), 文部科学省・基盤研究 (C) 石原多佳子: 地域高齢者の閉じこもり予防に関する研究 (2002-2004, 代表)

精神看護学分野 文部科学省・奨励研究 (A), 杉浦浩子: 精神障害者の「生きる能力」の構造化と評価に関する研究 (2001-2002), 笹川科学研究助成金, 杉浦浩子: 住民の持つ精神障害者との距離的感覚とその形成に関する研究 (2000)

### 3 学会等における活動状況

#### (基礎看護学分野)

大津廣子: 日本看護学教育学会 (評議員, 1997-), 日本看護研究学会 (評議員, 2001-), 日本看護医療学会 (評議員, 2002-), 日本看護研究学会東海地方会 (幹事, 2000-), 岡本恵里: 日本人間工学会 (評議委員, 1997-)

#### (健康援助学分野)

学会の役員, 委員等教授 江村正一: 日本解剖学会評議員 (継続中), 日本臨床電子顕微鏡学会評議員 (継続中)

#### (母性看護学分野)

西村正子: 日本母性衛生学会 評議委員・西村正子, 松宮良子: 岐阜県母性衛生学会幹事

#### (小児看護学分野)

桑田弘美: 第 15 回日本看護福祉学会事務局 (2002), 村井静子: 日本思春期学会評議員 (2000 ~ 2003.3)

#### (成人看護学分野 (慢性))

1) 学会の役員, 委員等: 足立久子: 第 2 回日本ヒューマン・ケア心理学会の開催 (事務局長) (2000)

2) 社会的活動: 細野容子: 中国労災病院臨床指導者研修企画・講師 (2001)

細野容子: 第 15 回日本看護福祉学会全国大会 第 3 群「在宅看護援助に関する研究発表」座長 (2002)

藤井洋子: 郡上中央病院看護部 研究指導 (通年) (2002, 2003)

藤井洋子: 村上記念病院看護部 臨床指導者研修 (3 時間 × 2) (2003)

#### (成人看護学分野 (急性))

1) 学会の役員, 委員等

竹内登美子: 日本看護研究学会 (評議員 2001-), 日本看護科学学会 (評議員 2001-, 研究・学術情報委員 2002-)

松田好美: 日本看護学教育学会 (評議員 2003-)

西本裕: 中部日本整形外科災害外科学会 (評議員 1997-)

2) 社会への貢献・その他

教授 竹内登美子: 日本医療情報学会 第 20 回医療情報学連合大会 看護領域チュートリアルチューター (2000), 日本看護研究学会東海地方会 第 6 回学術集会 (シンポジスト「看護実践の EBN」2002), 日本生殖医療研究会 (特別講演「医療職のストレスコーピング」2003)

西本 裕: 第 29 回日本低温医学会 (シンポジスト「凍結保存同種骨移植・骨銀行」2002)

#### (老年看護学分野)

松波美紀: 日本看護診断学会評議員 (1998-)

#### (地域看護学分野)

後閑容子: 日本民族衛生学会評議員 (継続中)

牧野茂徳: 日本産業衛生学会評議員 (継続中)

牧野茂徳: 日本公衆衛生学会評議員 (継続中)

牧野茂徳: 日本衛生学会評議員 (継続中)

牧野茂徳: 日本民族衛生学会評議員 (継続中)

その他

後閑容子: 厚生労働省医道審議会専門委員 (2001 年 6 月 ~ 2003 年 6 月)

後閑容子: 厚生労働省保健師助産師看護師国家試験委員 (2001 年 6 月まで)

後閑容子: 群馬県高齢者保健福祉計画運営委員会委員 (2001 年 3 月 ~ 2002 年 3 月)

後閑容子: 群馬県介護保険審査会委員 (2001 年 4 月 ~ 2002 年 3 月)

牧野茂徳: 東京産業保健推進センター産業保健相談員 (2001 年 3 月まで)

牧野茂徳: 岐阜産業保健推進センター産業保健相談員 (2001 年 7 月から)

## 5 教官組織

---

### 1 教官人事についての長期計画

---

学年進行中であり、完成年次の定員に向けて年次ごとの採用を計画的に進めている。教授の定員数及び助教授の定員数から講師を採用しているが、助教授、講師の平均年齢、教育歴、業績等から教授、助教授への昇格が今後の方向性とする。平成 17 年度に大学院修士課程の開設を準備中であるが、将来の博士課程開設に向けて、教授、助教授には学位取得が課題であり、今後の教員採用においても学位取得者の確保が望ましい。助手については平均年齢が高く、研究実績を積むこと、学位取得への取り組みなど教授等への道を奨励していく。看護学教育には臨地実習が重要な要素となるが、臨地実習指導や効果的な少人数教育の実践を実現するためには、現在の教官数では対応が難しい。実習指導要員、非常勤講師などの対策が望まれる。

## 6 施設・設備

---

### 1 施設・設備の現状・整備状況

---

#### (1) 新校舎について

新校舎（看護学科）は、平成 14 年 7 月に着工し、平成 15 年 3 月に完成した。建物の配置は、既設校舎の東側に南北に配置し、建物の東に駐車場を配し、正面（玄関前）には芝生による庭園を設け、学生及び教職員の憩いの場所として利用している。

建物概要は、SRC（鉄筋鉄骨コンクリート）構造 6 階建てで延べ床面積は、3,483 m<sup>2</sup>で、セミナー室、実験・実習室、共用実験研究室、教官研究室等を一つの建物に取りこんだ一体型建物となっている。

1 階の玄関ホールにはタイルを使用した壁画を施し、看護学科の校舎としては斬新なデザインになっている。また、テュートリアル教育としてのセミナー室を 1 階に 9 室、3 階に 4 室配置している。

2 階には、成人看護実習室 1, 2, 3, 基礎看護実習室 2, 成人老年看護実習室及び準備室を配置し、既設の建物との動線を図っている。

3 階は、地域・精神看護実習室 1, 2, 3, 4, 地域看護実習室及び精神看護実習室 1, 2 を配置している。

4 階には、助産学実習室、母性・小児看護実習室及び母性・小児看護実習室 1, 2 を配置し、学生の教育の向上を目指している。

5 階は、全学で共用できるプロジェクト的な教育研究活動に供するスペースを有する共同教育研究室 1, 2, 共用実験研究室を 6 室配置している。

6 階には、教官研究室を配置し、研究活動を行っている。

また、2 階から 6 階に学生が休息できる場所としてのリフレッシュコーナーが設置されている。